

2019 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	リハビリテーション演習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	夜間部1年		学期及び曜時限	通年	教室名	
担 当 教 員	河野 孝範	実務経験とその関連資格	理学療法士として急性期病院・クリニック・訪問リハビリテーションの実務経験あり。クリニックにおいて介護支援専門員としての実務経験あり。地域リハを専門としている。			
《授業科目における学習内容》						
<p>対象者に対してマナーを守って、必要なコミュニケーションがとれる。 障がいを持たれた対象者とコミュニケーションをとることで、医療人としての自覚を持つ。 見学実習において、理学療法士の役割を理解し、理学療法士にとって必要な臨床能力を学び、今後の学習の糧とする。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>施設実習前後期6回・見学実習3日間の出席評価、課題レポート、見学実習ディリーノート、面接OSCEで評価する。6割以上の得点で合格。</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
(参考図書)リハビリテーションビジュアルブック(学研)						
《授業外における学習方法》						
<p>各施設実習後にグループで振り返りをして、次回実習に生かすように。 学んだこと経験できたことを、レポートやディリーノートに記録する。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
各回の施設実習に対してグループで準備を行うこと。見学実習に対して十分準備を行うこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者とのコミュニケーションをとる上で意識すべき点を理解する 高齢者に対するマナーを理解する	レジュメ「コミュニケーション実習について」		
		各コマにおける授業予定	コミュニケーション実習の概要説明			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	マナーを守ってコミュニケーションとることができる	レジュメ「コミュニケーション実習について」	コミュニケーションの内容を事前準備しておく	
		各コマにおける授業予定	学生2人1組でお互いにコミュニケーションの練習(患者役と学生役)を行う			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	(施設実習1回目) 高齢者施設に訪問し、コミュニケーションの実践をする		グループでコミュニケーションの練習をしておく	
		各コマにおける授業予定	教員が集団体操を指導する中で、高齢者の傍らについてサポートする。 積極的に高齢者とコミュニケーションをとる。			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	(施設実習1回目) 高齢者施設に訪問し、コミュニケーションの実践をする		グループでコミュニケーションの練習をしておく	
		各コマにおける授業予定	教員が集団体操を指導する中で、高齢者の傍らについてサポートする。 積極的に高齢者とコミュニケーションをとる。			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	(施設実習2回目) 前回の実習での反省点を改善してコミュニケーションがとれる		施設実習1回目の振り返りをグループで行い、2回目の実習に生かす。	
		各コマにおける授業予定	実習内容は前回と同じである中で、前回の反省を改善して行動する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	(施設実習2回目) 前回の実習での反省点を改善してコミュニケーションがとれる		施設実習1回目の振り返りをグループで行い、2回目の実習に生かす。
		各コマにおける授業予定	実習内容は前回と同じである中で、前回の反省を改善して行動する。		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	2回の施設実習内容をグループで話し合い、グループ内で共有する。		パワーポイントで発表できるようにグループワークを行う。
		各コマにおける授業予定	2回の施設実習を通じてグループで振り返りを行った内容を発表する		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	集団レク・体操の内容を高齢者に意義あるものとなるように検討する		レク・体操実習の準備をグループで行う。
		各コマにおける授業予定	3回目・4回目の施設実習準備をグループで行う		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	(施設実習3回目) グループで考えた集団レク・体操をグループで協力して実施する		レク・体操実習の準備をグループで行う。
		各コマにおける授業予定	訪問先の施設の利用者様の状況を考慮した集団レク・体操をグループで考え準備して実施する。		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	(施設実習3回目) グループで考えた集団レク・体操をグループで協力して実施する		レク・体操実習の準備をグループで行う。
		各コマにおける授業予定	訪問先の施設の利用者様の状況を考慮した集団レク・体操をグループで考え準備して実施する。		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	(施設実習4回目) 前回の集団レク・体操実習の内容を振り返り、改善して実施する		前回のレク・体操実習を振り返り、改善できるようにグループで準備する。
		各コマにおける授業予定	前回の集団レク・体操実習の反省を生かしてより充実した内容にする。グループ全員が役割を持って、積極的に行動する。		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	(施設実習4回目) 前回の集団レク・体操実習の内容を振り返り、改善して実施する		前回のレク・体操実習を振り返り、改善できるようにグループで準備する。
		各コマにおける授業予定	前回の集団レク・体操実習の反省を生かしてより充実した内容にする。グループ全員が役割を持って、積極的に行動する。		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	施設実習で学んだコミュニケーションを面接OSCEで発揮できる。		
		各コマにおける授業予定	面接OSCEの概要と評価内容の説明		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	面接OSCEで問題なくコミュニケーションがとれる		
		各コマにおける授業予定	3人1組(患者役・学生役・評価者役)で面接OSCEの練習を行う。		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	面接OSCEに合格する		クラスメイト同士、3人1組で練習する
		各コマにおける授業予定	面接OSCEを実施する		